

令和2年5月1日

各 位

山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3

電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



満開のミヤマカスミザクラ

ミヤマカスミザクラ(バラ科)

世界でここだけで見られるサクラです。野草園内に自生するサクラで、花柄が枝分かれする等のミヤマザクラの特徴と、花卉の先に切れ目がある等のカスミザクラの特徴を併せ持つ自然交配のサクラです。花の色は白っぽく、清楚な感じがします。

山形市野草園では、ザゼンソウが3月に例年より2週間ほど早く開花するなど、他の植物の開花も早く推移するのかと思われました。しかし、10cmの積雪があった4月14日以降、寒さが戻り、ほぼ例年通りの開花時期へと変わってきました。5月、6月は多くの花々が咲き誇る季節となります。春爛漫、本園を訪れる皆様の目を楽しませてくれることでしょう。

5月の予定

- ◆新型コロナウイルス感染症対策のため、すべてのイベントは中止いたします。
- ◆5月16日(土)、17日(日)「家屋新築記念樹交付」(10:00~15:00)は、新型コロナウイルス感染症対策のためドライブスルー方式で交付の予定です。
- ◆当面の間、「自然学習センター」と「カフェやまぼうし」は閉鎖とします。
- ◆今後、開園状況が変更になる可能性があります。事前にホームページ又はお電話でご確認ください。
(<https://www.yasouen.jp>) (023-634-4120)

●●●5月上旬から6月前半に見られる主な花たち●●●



リュウキンカ(キンポウゲ科)

黄色（金色）の花が、立った茎に咲くので「立金花」と言われています。湿地や沼地に生える多年草で、葉はフキのようなまるい形をしています。黄色の花のように見えるのは、花弁状の萼片で、花弁はありません。「クリンソウの谷」の小川に咲き始めました。



キクザキイチゲ(キンポウゲ科)

まわりの木々が葉を茂らせる前にいち早く咲き出します。名前からもわかるように、花弁状の萼片が多く、葉も切れ込みが多く、キクの花に似ています。花色は多彩で淡紫青色から白色までいろいろあります。日が当たると花を開き、曇ると花を閉じてしまいます。



カタクリ(ユリ科)

1枚の細長い葉から平たい葉になって、2枚の葉を出すようになると花を開きます。種子から開花まで7年もかかるそうです。カタクリの花は淡紅紫色で、花びらのつけ根に濃紫色のW字形の模様があり、上の方へ大きくそり返ります。カタクリのでんぷんから採ったものが本物の片栗粉です。



キタコブシ(モクレン科)

冬には長い軟毛に被われた花芽がたくさんついています。春になると白い花を枝いっぱいにつけてくれます。花弁は6枚あり、花の下に小形の葉が1枚つきます。これが他のモクレン科の花との違いです。花芽や花を見ても名前の由来は分かりませんが、秋に実る果実を見るとよく分かります。果実が「握りこぶし」に似ているのです。



ミズバショウ(サトイモ科)

ミズバショウの白い花弁のようなものは葉の変形した仏炎苞、その中の黄色いものが花序（小花の集まり）です。名前の由来は、バナナの1種で葉の長いものは2mになるバショウという植物です。ミズバショウの葉も花後は80cm位になります。バショウの葉に似て、水辺が大変好きなのでミズバショウです。



オオヤマザクラ (バラ科)

東北地方や北海道に多く、それ以外の地域ではやや標高の高い山地に生えています。ヤマザクラよりも葉や花が大きいことが名前の由来です。赤っぽい色をした若葉が開くと同時に淡紅色の花を咲かせます。花色はヤマザクラより濃いです。小花柄は無毛です。6～7月に果実をつけ、葉は夏には暗い緑色に変化します。



エドヒガン (バラ科)

関東地方に多く、春のお彼岸頃に咲き始めるのでこの名がついたようです。葉より花の方が早く開き、淡紅色の5弁の花を枝から2～5個散形状に咲かせます。花の基部にある萼筒が丸くふくらんでいるのが特徴です。長寿の桜でも知られており、天然記念物の桜の大木には本種が多いようです。



カスミザクラ (バラ科)

ジュウガツザクラ、オクチョウジザクラ、ミネザクラ、オオヤマザクラに続き、ヤマザクラが開花した後に、葉の展開と同時に開花します。花は白っぽくヤマザクラに似ていますが、花柄に毛があるので区別できます。ヤマザクラよりも標高の高い所に多く生え、寒冷地を好みます。名前の由来は、開花時の花の様子を霞に例えたものだそうです。



ニリンソウ (キンポウゲ科)

藤棚の西側の道をはさんでウゼントリカブトの向かい側に咲いています。2個の花をつけることによる名ですが、1個のことも、3個のこともあるようです。白色の花は花弁状の萼片で、5～7枚あります。葉は3つに深く裂けていて、淡白色の斑点があります。



オオバナ/エンレイソウ (シュロソウ科)

園内ではエンレイソウが最初に咲き、次に本種、最後はシロバナエンレイソウが咲きます。大きな3枚の葉の上に白い花をつけますが、萼に相当する外花被片は緑色で、花弁に相当する白い内花被片は先があまりとがりません。



ムラサキヤシオツツジ(ツツジ科)

日本海側の夏緑林帯に多く針葉林帯にもあります。葉は枝先に輪生状に付きます。山形県では、鳥海山、月山、蔵王山、朝日岳、吾妻山などに普通に自生しています。本園ではロックガーデンに植栽しています。



アスマシャクナゲ(ツツジ科)

東北地方など東国に分布するので、この名が付けられました。枝の先に花芽が1個つき、そこから数個の花が咲きます。花は漏斗形で広く開き、先は5裂します。常緑の葉は革質で、裏面に灰褐色の真綿状の軟毛があるのが特徴です。



キバナイカリソウ(メギ科)

和名は花の形を船の碇に見たてたものです。主に日本海側の山地に生える多年草です。花色は淡黄色で、4枚の花弁からのびた長い距が四方につきだし、前のほうに曲がっているのがよくわかります。漢方では、強壯剤として有名です。



トウゴクマムシグサ(サトイモ科)

へびが鎌首をもたげたような姿の花です。葉は2個、小葉は長楕円形で7～9個つきます。仏炎苞は緑色～紫色、筒口部は少し曲がって耳状となっています。仏炎苞の中にある付属体は先端がまっすぐな棍棒状になるようです。



シラネアオイ(キンポウゲ科)

日本特産の1属1種の植物で、多雪地の山地に生える多年草です。淡紫色の花は花弁状の4枚の萼片です。中央に黄色い多数の雄しべと2つの雌しべがあります。葉は手のひら状に分かれています。名の由来は日光の白根山に多く、花がタチアオイに似ているからのようです。



ヒトリシズカ(センリョウ科)

高さは10～30cm。葉は4枚が輪生状に付き光沢があります。茎先に1本の穂状花序を出し、ブラシ状の小さな白い花をつけます。一本で生えるのは稀で、普通群生するようです。名前の由来はこの花の可憐さを愛でて静御前になぞらえたものと言われています。近縁種のフタリシズカが花穂を2本以上出すのと比較させています。



オキナグサ(キンポウゲ科)

花茎の先に付く花はつり鐘形です。葉も花弁状の萼片の外側にも白い毛が密生して白っぽく見えます。萼片は6個あり、内側は暗紫赤色です。花が終わった後雌しべが羽毛状にのび、老人の白髪のようになります。それで、オキナグサ(翁草)です。



サクラソウ(サクラソウ科)

山地の湿り気が多い所に生える多年草で、花が美しいのでよく家庭で栽培され園芸品種も多いです。葉は楕円形でしわが多く縁は浅く切れ込んでいます。名前はサクラに似ているからついたようですが、サクラソウは合弁花で5枚に見えるハート形の紅紫色の花弁は下がくっついて筒状になっています。



ヤマブキ(バラ科)

「七重、八重、花は咲けども…」という、武将太田道灌の逸話に出てくる果実をつけないヤマブキは、本種ではなくヤエヤマブキです。本種の花弁は5枚で、秋にはしっかりと果実をつけます。和名は、しなやかな枝が風に揺れる様子(山振)から名付けられたと言われています。



シロヤシオ(ツツジ科)

太平洋側の山地に多く、葉と同時に開く花は白いで清潔な感じのするツツジです。名も花が白いことからきています。花は広い漏斗形で先が5裂して上面の花弁の内側に緑色の斑点があります。葉は枝先に5枚輪生状に付くことからゴヨウ(五葉)ツツジとも言われます。